

[中吐] FOLFIRI+アバスタチン(ペバシズマブ) (2次10mg) 療法

外科 管理番号 D229
 処方医:
 適応症: 大腸癌
 2週間を1クールとして投与を繰り返す

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
アバスタチン	●													
レボホリナート	●													
イリノテカン	●													
フルオウラシル(ホーラス)	●													
フルオウラシル(持続)	●	●	●											

身長: _____ cm 体重: _____ kg 体表面積 _____ m²

[投与スケジュール] (_____ クール目)

Day1(月 日 ~ 月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食20mL 10mL以上のシリンジ使用 ポート開通確認	10mL		
生食100mL アバスタチン 10mg/kg [投与時間注意*] インフュージョンリアクション注意	1瓶		
グラニセロン点滴静注用バッグ3mg デキサート [30分 点滴静注]	1袋 9.9mg		
生食500mL レボホリナート 200mg/m ² [2時間 点滴静注]	1袋	生食500mL イリノテカン 150mg/m ² [90分 点滴静注][炎症性] レボホリナートの側管より同時に開始	1袋
生食50mL フルオウラシル注 400mg/m ² [15分間][炎症性]	1瓶	←投与5分前からクライオセピ®-30分間	
生食100mL フルオウラシル注2400mg/m ² [46時間][炎症性]	フルオウラシルと生食適量を 混合し140mLとする		
生食20mL 10mL以上のシリンジ使用 ポートフラッシュ	10mL		

プライミング

* 初回投与時は90分 初回の認容性が良好であれば2回目の投与は60分間で行ってもよい。
 2回目の投与においても認容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与することができる

[DLF] フルオウラシル 白血球減少・口内炎および下痢
 イリノテカン 白血球及び下痢(水様便)

DAY2(月 日)~DAY3(月 日)

薬剤名	投与量
デカドロン錠	8mg 1×朝食後

[適正使用基準]

1. 口内炎がない
2. 下痢がない
3. TS-1が投与されていないかまたは投与中止後7日以上経っている
4. 重症感染症またはその疑いがない
5. 腸管麻痺・腸閉塞がない
6. 間質性肺炎または肺線維症がない
7. 多量の腹水・胸水がない
8. 黄疸がない
9. 硫酸アタザナビルを投与されていない

イリノテカンの投与量
 [今回の投与量] [累積投与量]
 mg/body mg/bc

10. PS (Performance Status)が0~2である		
11. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。		
WBC	4000 ≤	
Neut	1600 ≤	
PLT	15万 ≤	
HGB	11.0 ≤	
GOT	≤40	
GPT	≤35	
TBil	≤1.2	
BUN	≤20	
Cr	≤1.1	
Mg	1.7~2.5	
K	3.5~5.0	
Na	135~146	
Ca	8.7~11	
P	2.5~4.7	
蛋白尿	2+で投与可	

[肝機能を考慮した投与量の調節]

TBil(mg/dL)	<5.0	5.0 ≤
フルオロウラシル	100%	中止

[FOLFIRI療法における減量基準]

		フルオロウラシル	イリノテカン
G2以上	好中球減少	—	180mg/m ² →150mg/m ²
G2以上	血小板減少		
G2以上	下痢		
G3以上	すべての毒性	2400mg/m ² →2000mg/m ²	—

[DLF以外の重大な副作用]

フルオロウラシル

- ・脱水症状【激しい下痢等】
- ・出血性腸炎、虚血性腸炎、壊死性腸炎【激しい腹痛・下痢等】
- ・ショック、アナフィラキシー様症状【発疹・チアノーゼ・呼吸困難・血圧低下等】
- ・白質脳症【歩行時のふらつき・四肢末端のしびれ感・舌のもつれ感等】
- ・うっ血性心不全、心筋梗塞、安静狭心症【疲労感・息苦しさ・むくみ・胸痛・胸部圧迫感等】
- ・急性腎不全【むくみ・尿量低下等】
- ・間質性肺炎【咳・息切れ・呼吸困難・発熱等】
- ・肝機能障害・黄疸、肝不全【食欲不振・倦怠感・黄疸・検査値異常等】
- ・消化管潰瘍【食欲不振・腹痛・吐血・下血等】
- ・急性膵炎【腹痛・腰背痛・発熱・嘔吐・血清アミラーゼ値上昇等】
- ・意識障害を伴う高アンモニア血症
- ・肝・胆道障害(胆嚢炎、胆管壊死、肝実質障害等) * 肝動脈内投与時【腹痛・発熱・黄疸等】
- ・手足症候群【手掌・足趾の紅斑・疼痛性発赤腫脹・知覚過敏等】
- ・臭覚障害、嗅覚脱失(長期投与症例に多い)

トポテシン

- ・腸管穿孔、消化管出血、腸閉塞
- ・間質性肺炎
- ・ショック、アナフィラキシー様症状
- ・肝機能障害、黄疸
- ・急性腎不全
- ・肺塞栓症、静脈血栓症
- ・心筋梗塞、狭心症発作
- ・心室性期外収縮

アバスタチン

- ・消化管穿孔(突然起こる強い腹痛)
- ・創傷治癒遅延
- ・原発巣からの出血(下血)
- ・肺転移巣からの出血(喀血)
- ・脳転移巣からの出血(突発性の意識障害、神経障害、頭痛、嘔気・嘔吐、めまい)
- ・動脈血栓塞栓症 (胸痛)
- ・動脈血栓(突発性の意識障害、神経症状、嘔気・嘔吐、めまい)
- ・高血圧に伴う緊(頭痛、視力障害、意識障害、悪心・嘔吐)
- ・可逆性後白室脳症症候群
- ・ネフローゼ症候群(蛋白尿)
- ・ショック、アナフィラキシー様症状
- ・好中球減少症
- ・うっ血性心不全(呼吸困難、乏尿、体重の変化)

